

いしかわ

NPOニュース

「公平な商品取引を通じて、貧しい国の住民の自立を支援する」

コミュニティ・トレード a(アル)代表 葛葉 むつみさん

フィリピンで目の当たりにした
貧困の現状

——フェアトレードくらの活動についてお聞かせください。

葛葉 平成9年に発足したフェアトレードくらは、「フェアトレードを通じて自分たちの暮らしを考える」をテーマに活動しています。会の名称にもなっているフェアトレードとは、フィリピンなど経済的に立場の弱い国の住民が作る衣料品や食料品、雑貨を公平な価格で取引して自立を支援する活動です。また、暮らしに関わる環境をテーマにしたイベントも開催しています。7名でスタートした会員は、現在15名います。

——葛葉さんの経歴をお聞かせください。

葛葉 平成3年、大学を卒業し、幼稚園の教諭になりました。3年勤めた後、退職して2年間ほど世界を回りました。行った国は、ニュージーランドやインド、ネパール、タイ、フィリピンなどです。平成8年に帰国し、フェアトレードくらは金沢を発足しました。平成14年には市民グループとしてのフェアトレードくらと、フェアトレードのショップのコミュニティ・トレード a(アル)に分け、フェアトレードのショップの責任者を務めています。

——フェアトレードを始めるきっかけは。

葛葉 幼稚園の教諭をしていたとき、フィリピンで児童施設「バグサゴップ」を運営しているフィリピン人弁護士と知り合いになりました。その縁で、平成7年11月にフィリピンを訪れました。そのとき、貧しい家庭の子どもたちの厳しい暮らしや、路上で生活する子どもたちを見て、大変ショックを受けました。当時、フィリピンでは日本のODAなどの投資で造る道路や空港、港といったインフラ整備が進められていました。その際、建設予定地に住んでいる住民を追い立てるといった現実がありました。また、日本に輸出するためのプランテーションで働く人たちの条件が悪いということもあり、日本とフィリピンのゆがんだ関係にもショックを受けました。そこで、フェアトレードを始めようと思ったのです。



フィリピンの児童施設「バグサゴップ」の子どもたち=平成1年

フィリピンの生産者の生活や気
持ちは変わった

——立ち上げの苦労は。

葛葉 賛同者も集まり、意気揚々とスタートしました。ところが、フェアトレードの特徴から、「ボランティア団体なの？利益団体なの？どっちなの？」と聞かれることが多く、どっちと答えることができずに困りました。フェアトレードに対する理解を得るのが難しかったですね。また、公民館など公共施設では、物販の活動が制限されることもありました。当初、民家を借りて活動したり、祭りやバザーなどが集まる場所で露店を開いていました。現在では、ショップを開き、商品の品数も充実させることが出来ました。しかし、販売で正当な利益（人件費、賃貸費など）を得ながら、公益（公共の利益）にも尽くそうとしている活動が理解されないときもあります。

——活動を続けてよかったと感じたときは。

葛葉 うれしいのは、現地の生産者の生活や気持ちが変わっていくことです。私たちは、ココナッツを原材料にした食器などをフィリピンなどから買い付けていますが、最初のころは意志の疎通も難しく、行き違いもあり、こんな物を作ってどうなのだ、という感じもありました。ところが、次第にフェアトレードの活動を理解し、今では原価計算から新商品の開発まで行っています。そう、自分たちの商品に自信を持つようになったのです。

——今後の課題や目標は。

葛葉 現在はフィリピンとの交流が深く、今後は、もっといろんな国とのフェアトレードを深めていきたいと思っています。そしてお互いに啓発し合える仲になることを期待しています。とりわけ、環境問題を抱える今の日本のライフスタイルを見直すため、世界各国の知恵を授けてほしいと思っています。

P R O F I L E

葛葉 むつみさん
(くずは むつみ)

石川県能都町出身。大学卒業後、幼稚園の教諭になる。その後、退職し、約2年間、世界の貧しい国を中心に回りながら、自分ができることを模索する。その中でフェアトレードの活動を知り、帰国後、平成8年にフェアトレードくらは金沢を発足、代表に就く。現在、コミュニティ・トレード a(アル)代表。

【お問い合わせ】フェアトレードくらは/コミュニティ・トレード a

〒921-8815 石川県野々市町本町 2-1-24

TEL& FAX 076-246-0617

URL <http://www.h4.dion.ne.jp/ftc/index.html>

この冊子は再生紙を使用しております。

[ちょっと気になる、いしかわのNPO]

NPO法人
石川県小型船安全協会

いしかわのNPO

NPO法人 歴町センター大聖寺
スノーゲル マム
自分を見つけるママの会 Snigel m.NPO法人 起業ネットかなざわ
ボランティアグループ「窓」NPO法人 いしかわ介護ボランティアセンター
(さわやか)

川への祈り実行委員会 ~川はともだち~

NPOの基礎講座

ボランティアから知ろう
会計Q&A

INFORMATION

県からのお知らせ

NPO・ボランティア情報
助成金ニュース

リーダーズVOICE

コミュニティ・トレード a(アル)
代表 葛葉 むつみさん「特集」
協働ってなんだろう？つながる、
ひろがる、
ふれあう。

石川県

URL <http://www.ishikawa-npo.jp>



Vol.1 施設管理委託から考察する協働の領域分担

最近、「協働」という言葉をよく耳にします。石川県は「NPOとの協働に関する手引」の中で、NPOと行政の協働を「相互の立場や特性を認め、共通する課題の解決や社会的目的の実現に向け、積極的にサービスを提供するなどの協力関係」と定義し、県民生活を向上させるうえにおいて、大変重要な意義を持つとしています。また、市町村の中にも協働を意識した事業を行ったり、部署名に協働ということを取り入れているところもあります。

そのような社会状況の中で、協働のあり方や協働以前に考えなければならない根本的な事柄について、果たして十分な議論が尽くされているのでしょうか。

これから数回にわたって幾つかの事例を参考にしながら、協働の意味やその課題を考えていきます。今回は、石川県加賀市のNPOへの公共施設管理委託の事例をもとに、協働の姿を探ります。

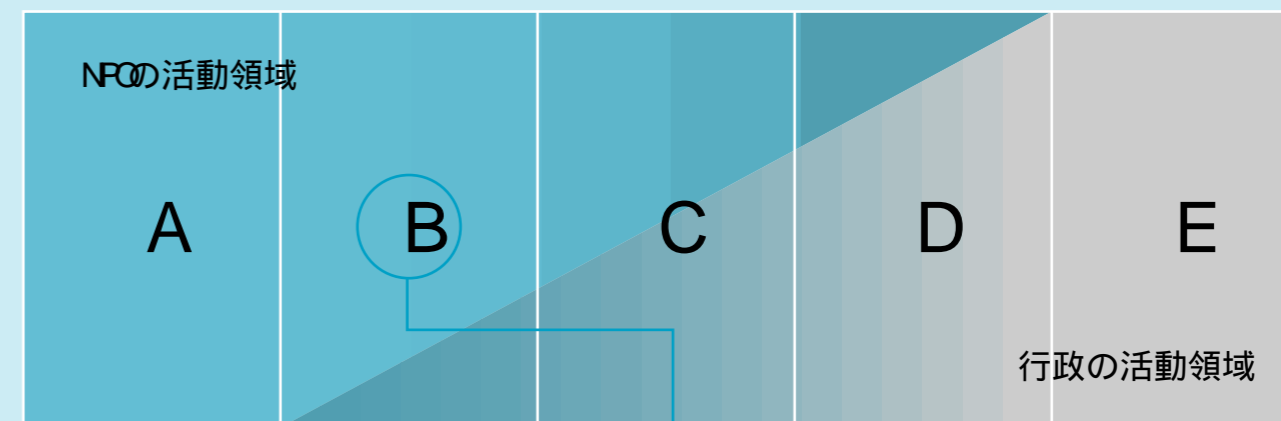
【事例】石川県九谷焼美術館の喫茶・ミュージアムショップ部門の運営委託

背景

美術館の建設に伴い設立された「NPO法人 さろんど九谷」。その前身団体である市民組織「古九谷研究会」は、かねてから地域の財産である九谷焼文化の啓発拠点としての美術館建設運動を行っており、美術館の建設計画

委託事業内容	石川県九谷焼美術館内「茶房古九谷」 「喫茶・ミュージアムショップ」部分施設運営
委託団体	財団法人 加賀市地域振興事業団
受託団体	NPO法人 さろんど九谷
施設規模	施設規模 鉄筋コンクリート造2階建 延床面積 約2,165㎡ 委託面積 約150㎡
委託事業の目的	来館者及び地域住民や美術愛好家のくつろぎの場。 現代九谷焼き作品をPRするもう一つの美術館機能の場。 陶芸文化の発展及び賑わいあるまちづくりの推進に寄与すること
受託団体の活動目的 受託団体の業務内容	喫茶・ミュージアムショップ事業(事業団からの委託) 美術館友の会運営(友の会から委託事業) 友の会広報誌の発行、行事案内、館藏品鑑賞会、研修旅行 美術館利用者へ交流事業 講座、コンサート、鑑賞会など 施設営業時間 9:30~17:30(月曜定休日)
	喫茶・ミュージアムショップの収入金
	¥176,400(年間)

社会サービスの供給におけるNPOと行政の役割領域概念図



AはNPOが主体的に活動を行う領域
B・CはNPOと行政がそれぞれの役割に応じて協働する領域
Eは行政が主体的に活動を行う領域

出典：山岡義典「時代が動くとき(ぎょうせい)」一部研究会による修正

美術館機能の棲み分け

施設全体に対する委託面積比をみてもわかるように、施設管理・作品展示公開・企画・収藏品管理その他の美術館機能と美術館施設運営に関してその大部分を市と財団が担っており、美術館の付帯機能である喫茶とミュージアムショップ業務部門のみをNPOに任せています。この部門は営利事業であり、行政の得意分野ではありません。従来であれば、営利企業への委託が検討されたのですが、美術館がはたす目的を共有する非営利の専門的市民組織への業務委託は、一般の営利企業への委託に比べ、美術館付帯機能充実のためによりよいサービスを提供できるものとして事業が行われています。

NPOによる各種事業

約2年の活動実績を重ね、美術館友の会運営や広報誌の発行、収藏品鑑賞会開催。現代九谷焼作品の物販ギャラリーと喫茶を常設、九谷焼の作り手支援と文化の未来価値創出を行う。美術・文化講座やコンサートを開催、美術館利用者の拡大を図るなど、市や財団による美術館運営を補完する事業活動を積極的に行っています。

委託費

NPOの委託事業収入が委託者からの業務委託費とされており、市や財団の委託費支出はゼロです。NPOにとっても一般のテナント入店に比べれば比較的安い使用料となっています。

喫茶物販スペースのみを受託し、管理費が安く事業ができる分、その収益をNPOの非営利活動事業への繰入金として投資し、美術館のソフト機能をより充実させていきます。

事例に関する評価

NPOの収益事業への館内宣伝に規制があるなど、NPO行政双方の立場で細かな課題はありますが、今後も話し合いを重ね、目的を共有し、次年度もこれまで通りの委託形態でこの事業委託が行われそうです。陶芸文化の発展を目的とするNPOによる主体的な活動に行政が美術館の一部を提供することにより、公共のサービスが向上しています。これは上記の概念図の協働領域での協働好事例と言えるのではないのでしょうか。



九谷焼美術館「茶房古九谷」

今後の協働に関して

今、市民にとってより充実したサービスが提供できるよう、NPOと行政は、それぞれの役割を再考し、協働による市民主体の公共サービスを創出することが求められています。

協働は、目的が共有されていることが重要であり、お互いが自立し、対等な立場でその目的を達成していくという姿勢こそが必要ではないのでしょうか。

(文責 いしかわ協働ネットワーク研究会)

「協働」に興味をもたれた方は、石川県・いしかわ協働ネットワーク研究会共催事業「石川県協働推進人材養成講座」にぜひご参加ください(8ページ参照)。

NPO法人 歴町センター大聖寺

〒922-0811 加賀市大聖寺南町チ 81-3
TEL 0761-73-0220
FAX 0761-73-0220
E-mail daishoji@po5.nsk.ne.jp

活動内容等

加賀市、山中町、小松市の一部を含む旧大聖寺藩内には、十萬石の城下町としての面影がみられます。しかし、幾度かの災害により、その町並みや文化遺産は減りつづけ、今では、ごく僅かに残る程度となってしまいました。

その貴重な歴史的景観を守り、整備することによって、住む人や訪れる人に潤いを与え、子供達が地域に誇りをもって暮らし、さらには地域が活性化することを期待し、平成13年にNPO法人 歴町センター大聖寺 を設立しました。会では、住民の目線で自らが楽しむことをモットーに、自分達でできることから活動しています。



「町並みづくり・あったらもんシンポジウム」での子供達による町歩き(平成14年開催)

活動は、前身である「大聖寺まちなみ景観整備委員会」を含め、平成6年の「第一回楽しく歩こう歴史街道」の開催が始まりです(以降、毎年開催)。その後、旧大聖寺藩内や東京大学などへの一里塚の設置、北国街道への石畳の設置、「まちなみ景観講演会」の開催(平成9年より毎年開催)などを行ってきました。



時鐘堂(平成15年再建)

また、古民家を歴史体験資料館「時習庵(後に国の登録文化財に指定)」に改修し、琴、尺八、三味線、太鼓、民謡、詩吟の邦楽教室「時習庵社中」を設立しました。

さらに、歴史的な通りへ名称看板を設置し、観光ボランティア養成講座「加賀江沼ふるさと史跡あんないびと」を開講、「大聖寺史跡案内所」も設置しました。平成15年には、多くの方に協力いただいて、武士の集合や木戸の開閉の時刻を告げ、大聖寺のシンボルだった「時鐘堂」を70年ぶりに再建しました。

りに再建しました。

今年9月17日～19日には第2回全国町並みゼミ大聖寺大会を開催します。本大会では、「景観とは、目に見える町並みばかりではなく、五感全てで感じるものであり、一年の歳時記や風習など生活全体」と捉え、景観本来の姿を学ぶことを目的としています。全国から町並み保全やまちづくりのリーダーが集まり、熱い議論が展開されますので、関心のある方はぜひ参加してみませんか。

自分をみつけるママの会 Snigel m.

スノーゲル マム

TEL 076-280-1819
E-mail snigel_m@ybb.ne.jp

あるでんでんむしが、自分の背中のかげにかなしみがいっぱいつまっていることに気づき、「もう生きていかれない」と友達をたずね歩きます。すると友達は「君だけで はない。ぼくの殻にもかなしみがいっぱいだ」と。皆が「自分もあなたと同じだ」と言うのを聞き、でんでんむしは「かなしみは私だけが持っているのではないのだ」と、再び生きていく...。これは「でんでんむしのかなしみ」という童話です。Snigel mの「スノーゲル」とは、ある外国語で「でんでんむし」です。

何とも言えないモヤモヤ・夫とのすれ違い・「全てうまく行ってるはずなのに...」との不安や子どもとワイワイ遊びつつ内心に感じる孤独さなど、育児中の女性達は様々な背中の殻を持っています。人には知られたくない自分の一面や過去の関連に自覚的であるほど、それらを秘めて抱えざるを得ないこともあるでしょう。



ワークショップ風景

そのため、Snigel mは匿名参加が可能で会員制を取りません。でんでんむし達のように、自分が抱える感じについて話したり、皆の話を聴いたりするのが活動の柱です。参加者を一般募集するワークショップ(参加・体験型の学習交流会)や数人で行う

自助グループ、一対一での相談などを、5人の母親が企画・運営しています。

2002年よりセルフ・ディフェンス・プログラムも手がけるようになりました。「腕力がなくても自分を護ることが解った」「高齢でもできる易しい内容」「自分に自信が持てる」「気持ちがスッキリした!」などと大好評。全国各地に出張しています。



セルフディフェンス講座の様子

その他、子どもの虐待・摂食障害などの依存症・自助グループ運営等に関する当事者視点での講話などもお受けしています。

ただ、ここで力を取り戻した多くのおかあさんは仕事や自分の道へと羽ばたいていっちゃうのです。スタッフや人手がもっと増えれば...と感じることもありますが、細々とでも続けていきたいなと思っています。

お知らせ

11月27日、28日に、フォーカシング講座を開催します。お気軽にお問合せください。

NPO法人 起業ネットかなざわ

〒920-0997 金沢市野町2番 細田ビル(BELSEL4階)
TEL 076-263-1492
FAX 076-263-1491
E-mail kigyonet@ch-i.ne.jp

起業ネットかなざわは、起業を支援するNPO法人(特定非営利活動法人)です。起業・創業の立ち上げ支援や相談業務、起業セミナーや職業能力のスキルアップ講座などを行っ

これまでの主な活動実績

- 「創業支援実践研修 仕事おこし講座」
- 「経営マネージメント育成セミナー」
- 「ビジネスアイデアコンテスト」
- 「女性のためのビジネスセミナー」
- 「子ども起業体験学習会」
- 「コミュニティビジネスセミナー」
- 「起業・創業相談会」

定款に記載された目的

この法人は、石川県及び北陸地域の人々に対して、起業支援と職業能力向上に関する事業等を行い、地域の経済的・社会的発展に寄与することを目的とする。

事業の種類

- 起業志望者を支援する事業
- 起業に関する教育又は起業のための社会基盤整備を図る事業
- 地域経済の活性化を図る事業
- 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する事業



起業支援セミナーの様子

ボランティアグループ「窓」

〒920-0966 金沢市城南2丁目 40-1
TEL&F A X 076-262-5660

活動内容等

1994年、金沢市が全国で初めて、ボランティア育成のため「金沢ボランティア大学校」を設立しました。私たちのグループは、その生涯学習コース修了生で、「学んだことを生かしたい」との思いで修了と同時に、95年に結成しました。生涯学習という何となく堅苦しいなかで、メンバー一人ひとりの思いをよせ集め、大きな柱を、「ボランティアのボランティア」とし、ボランティアの輪が広がるように、さわやかな風が吹き込むように、「窓」を一杯広げ開けています。

主な活動は、ボランティアの人たちや、グループ同士の交流会や研修会の企画、運営のお手伝いをしています。特に、毎年秋の市の生涯学習バス「マナビー号」で行く、日帰り研修旅行は、とても好評で、近くに居ながら知らなかった、石川、福井、富山のすばらしさを新たに発見し、帰りのバスの中では、「また、お誘いしてね」との声が聞こえます。

もう一つは、ボランティアに関する新聞の切り抜きをして、ファイルにとじています。10年



スタッフの皆さん

近く続けていますので、年月やボランティアの種類によって分類していますが、ものすごく厚くなってきています。これからは、パソコンにとりこめるようにも考えています。毎週木曜日に集ま



料理研修会にて「まつりずし」づくり

って、北国新聞、中日新聞、朝日新聞、読売新聞を読みかえし、ボランティアの記事を切り抜きます。やはり、ボランティアをする参考になり、元気づけられます。こんなこと、私たちがやりたい、こんなことだったら私たちもできるよね、と言いながら。そしてもっとたくさんの人にも見てもらえるよう、月刊誌の本みたいにならしたいのと思っています。

結成して、10年が経ち、「ボランティアのボランティア」を目指して模索が続いていますが、したい人、してほしい人がまだまだ、たくさんいらっしゃいます。その出逢いのお手伝いができればと願っています。

NPO法人 いしかわ介護ボランティアセンター (さわやかU)

〒920-0024 金沢市西念一丁目1番2号
TEL 076-222-3337
FAX 076-222-3374

「さわやかU」誕生の背景

高齢化社会に対応するためにスタートした介護保険制度ではフォロー出来ない枠外サービス(草むしり、窓拭き等)の問題を解消するため、2000年9月に連合石川、労働金庫、全労済、石川県労働者福祉協議会(労福協)等が中心となり、思いやりを表現するボランティア組織として「いしかわ介護ボランティアセンター」が誕生し、2001年5月にNPO法人として認証を受けました。

これまでの活動内容

(1)各種イベントへの障害者、高齢者の支援

- ・ 養護老人施設への餅つきボランティア
- ・ 障害者施設でのバザー支援
- ・ 障害者、高齢者を交えた花見旅行



今年の花見会(加賀市中央公園にて)



餅つきボランティアの様子
(搗き手 澤理事長)

・「石川の夏祭り」車椅子参加者の支援

(2)介護保険適用外支援

- ・ 草むしり、窓拭き、大掃除

(3)車椅子利用者への移送サービス支援

2003年3月より車椅子利用者を支援する移送サービスを開始しました。サービス名称を「さわやかUキャプサービス」といい、現在利用者は15名で17名の運転ボランティアで運営しています。

(4)他ボランティア団体との交流

(5)研修会等への参加

課題

(1)「さわやかU」のボランティア会員の多くは現役の勤労者であり、平日の活動に参加しにくい状況にあります。移送サービス等、平日利用が多いボランティア活動に参加していただく方を確保することが難しくなっています。

(2)「さわやかU」会員は加賀市から珠洲市まで県内各地に在住しています。事務局が金沢市にあることや移送サービスの運行エリアが金沢圏となっていること等から活動が金沢中心となっています。

そのため、加賀地区、能登地区に在住する会

川への祈り実行委員会 ~川はともだち~

〒926-0804 七尾市生駒町16-4(株御被川内)
TEL 0767-54-8866
FAX 0767-53-4811

発足のきっかけ

川への祈り実行委員会は、ピアニスト加藤 さんのチャリティーコンサート「川への祈り」の開催をきっかけに、2000年8月に発足しました。それまで、加古さんは七尾で何度か能登国際音楽祭に出演していましたが、川の再生についての活動が始まったことを知って、コンサートを申し出てくれたのです。ですから、最初のメンバーはそれまで国際音楽祭に関わっていた人たちです。

私たちは、最初の川への祈りコンサートに合わせて「川への祈りFUND」を立ち上げ、川の再生に賛同して寄付をくださった方をコンサートに招待するという形で活動を始めました。

活動内容

コンサートの開催後、3つのコンセプトにしたがって活動を始めました。川と市民の関係を取り戻す、川の再



毎月第二日曜日は川そうじ

生に関する情報を収集・発信する、川の再生を願う市民の輪を広げる。そして、「川はともだち」を合言葉に、次のような活動を展開しています。

・ 毎月第二日曜日の川そうじ&川あそび、川への祈りコンサート、ふるさとの川セミナー

・ 源流遠足、ピオパーク(植物を使った手づくりの浄化施設)の世話と浄化実験

・ 御被川浄化研究会への参画、水質調査ワークショップ、排水路対抗浄化大会

そのほか、川沿いで行われる様々なイベントで、市民と川の関係を取り戻そうとしています。

これからやっていきたいこと

川がきれいになるだけでは、私たちのミッションは達成されないと思います。川の再生は、水がきれいになるだけでなく、川と市民の関係が取り戻されることが大切です。そのために、現在は下流が中心になっている活動を流域全体に広げていきたいと考えています。源流から河口まで、流域の人々が力と心を合わせて、川の恵みに感謝しながら、



水質調査ワークショップ

注目!

ちょっと気になる、いしかわのNPO

NPO法人 石川県小型船安全協会

Vol.1

「安全・環境・文化をテーマに美しい海を次代へ」

自治体と協力して海洋環境の保全に取り組む

石川県小型船安全協会は、県内の小型船所有者のグループが中心となり、昭和60年に任意団体として設立しました。活動の目的は、生死に直結する海難事故を未然に防ぐ指導やパトロールなど、安全に関する活動全般です。また平成10年より、時代の要求に応えるべく、海や河川の環境保全事業や文化創造事業も手掛けるようになりました。そして活動の幅が広がったことから、平成14年に法人格を取得。現在、参加団体と人数は、23団体940人となっています。

環境保全事業は、水産資源保護(漁業者に迷惑かけない、小さな魚は捕らないなど)、船舶の係留廃船の適正化(ボートの有料係留施設と一体となったウォーターフロントパークの提案、廃船の取締りと早期撤去など)、海洋美化(ゴミ持ち帰りや海岸河岸清掃など)などいろいろです。特に、係留廃船問題対策は重要テーマです。持ち主の所在がわからず、朽ち果てて放置された船は水を汚染します。最近では、国からの指針も提示されており、これらの諸問題に石川県や各市町村との協働で取り組んでいます。

作家や画家の賛同を得ている「ざぶん賞」

文化創造事業では、「海と遊ぼう!」と「ざぶん賞」の2つの活動を展開しています。

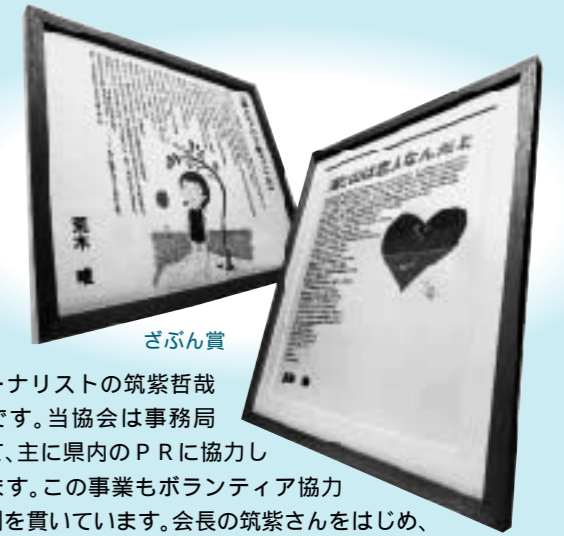
小学生以上の親子に海を身近に体験してもらおうと、「海と遊ぼう!」では、金沢港、七尾港、また小松や美川を会場に、会員の提供した舟艇にてクルージングやヨットの試乗などを楽しみ、同時に海洋安全と環境保全について学んでいただきます。中でも親子ボートフィッシング大会では、魚を釣り上げたときの子どものまぶしい笑顔も印象的です。それぞれ仕事を持つ会員の皆様が開催の準備からすべて携わり、たいへんですが、参加された皆様から、「海の体験に感動した」、「親子の絆が高まった」など感謝され、また来年もという気持ちになります。その他トライアスロン大会など自治体主催事業の安全確保にも各地で会員が協力しています。

海では「自然」や「命」の大切さを学べます。もっと海を身近に感じてほしいと願っています。そこで子どもたちに生命の源である海や水についてもっと考えてもらおうと、「ざぶん賞」というコンテストも企画しました。全国の小中学生から海や川、水をテーマにした作文を募集し、アーティストの協力を得、入賞作文に挿絵などを加えた新しい作品に仕上げ、それをプレゼントし、展示するという事業です。今年で3年目ですが、年々発展しています(平成15年は480点の応募)。



ざぶん賞贈呈式

ざぶん賞実行委員会を設け、会長は



ざぶん賞

ジャーナリストの筑紫哲哉さんです。当協会は事務局として、主に県内のPRに協力しています。この事業もボランティア協力の原則を貫いています。会長の筑紫さんをはじめ、作家の安部龍太郎さんや東大名誉教授の月尾嘉男さん、画家の西のぼるさん、多くの文化人や賛同する企業、個人にご協力をいただき、全国的に輪が広がっています。毎年金沢市で開催する表彰式では、受賞した子どもやご両親がアート作品になった自分の作品を宝物のように抱える姿も見

お知らせ

「ボランティアスタッフを募集しています」

現在、ざぶん賞実行委員会事務局では、入力業務などをお手伝いしてくれるボランティアスタッフを募集しています。
ボランティア内容 文書入力、事業のPR

「ざぶん賞2004」作品募集中

テーマ
水に関する環境や安全、文化に関する内容の作文・童話・詩・手紙
参加資格
全国の小中学生
作品
1,200字以内(40字原稿用紙3枚)未発表作品に限る
応募方法
一般の原稿用紙、A4用紙、ハガキのいずれかに文章を書き、題名、名前(ふりがな)、学校名、学年、性別、連絡先住所、電話番号、連絡先が学校の場合はご担当の先生のお名前を明記し、郵送または電子メール(電子メールの場合は原稿データを添付し、メールアドレスを、ざぶん賞として送付してください)でお送りください。

締め切り
2004年9月6日(消印有効)

主催
ざぶん賞実行委員会
後援
文部科学省、国土交通省、環境省、水産庁、海上保安庁、全国各県など
お問い合わせ先
〒920-0362 金沢市古府1-197
NPO法人石川県小型船安全協会事務局
TEL 076-249-7353

「いしかわのNPO」 掲載情報募集のお知らせ

今年度より、県内のNPO・ボランティア団体の活動内容等の情報を発信するコーナーを設けました。貴会の活動の情報を発信する場として、ぜひご

掲載参考項目
・ 団体名、団体住所、電話番号、FAX番号、E-mail、URL
・ 設立の経緯、活動の内容(必ずご記入ください)、困っていること、アピールしたいこと等
600~800字程度にまとめてください。
掲載料/無料

寄稿方法/郵送、FAX、メールいずれも可
その他/活動風景や代表者のお写真も併せて送付いただければと思います(電子データ可)。
送り先/石川県NPO活動支援センター
〒920-0362 金沢市広坂2-1-1 石川県広坂庁舎2号館 階 TEL 076-223-9558 FAX 076-223-9559
E-mail npo@pref.ishikawa.jp 担当/岩城、河原

川への祈り
FUND

一口1,000円(何口でも)事務局までお名前、連絡先、協力口数をお知らせください。

振込先 川への祈り実行委員会 代表 森山外志夫 能登信用金庫本店 普通 1262258/北国銀行七尾支店 普通 400671

申し訳ありませんが、振り込み手数料はご負担ください。
ご協力いただいた方には事務局より川への祈りステッカーを郵送いたします。協力の証としてご家庭の水周りや車などに貼ってお使いください。

第1回 ボランティアから知ろう

NPO活動が社会で認知されるにつれ、「NPOって何？」と思う人の裾野は広がってきました。平成10年3月に国会で「特定非営利活動促進法」が成立する以前、この法律を「市民活動促進法」という名称で上程しようとしたそうです。この案で通れば、今ほど無理解が大手を振る事がなかったでしょう。ボランティア活動を奨励している所ですら「非営利=無償=ボランティア」と教えているのですから、益々混乱は速度を増しそうです。

「ボランティアは個人」「NPOは組織」という理解はとても一般的ですね。でもそれは、活動の形態を切り取って表現しているにすぎません。活動に参加する立場、つくる立場によってその理解は異なってしまいます。

「17世紀中頃のイギリスで、戦火から村を守る自警団、また、18世紀後半からのアメリカ、ヨーロッパの独立戦争に志願する義勇兵、辞書で「ボランティア」を調べると語源が書かれています。21世紀の日本社会風に翻訳するなら、「心意気で社会活動に取り組む人」でどうでしょうか。対価や代償は後で付いてくることはあるにせよ、「これをやってみたい」と思う「心意気」をもって行動する人のことです。「自発的な、自主的な意思」と同じ意味です。

さて次に大事なことがあります。「心意気」の同じ人が複数集まって活動を始めた想定しましょう。活動にもいろいろな種類がありますが、大勢の人手がないと解決しない問題。「重油の除去」「海岸清掃」「竹林の伐採」などでも良いでしょう。参加する人の活動形態は強制ではなく自発的、すなわちボランティアです。呼びかけてイベントを準備する側も「心意気」の同じ人が集まっています。こちらも活動形態としてはボランティアです。さて、違いはなんでしょう？前者は参加する個人のボランティア、後者はそのボランティアを受け入れる立場になっています。参加した人たちの自発的な気持ちに達成感を感じてもらえるよう、さまざまな準備に奔走するという立場です。こうしてボランティアが組織的に動かなければ、実現しない活動が生まれてきます。

このように、個人のボランティアによる集団(団体)が誕生し、継続的な組織活動が行われるようになると、「ボランティア団体」とが「NPO(民間非営利組織)」と呼ばれるようになるのです。

今回は「非営利をもっと知ろう」です。

文責 i-ねっと事務局長 青海 康男

NPO会計 Q & A

任意団体で活動して3年になります。もうすぐNPO法人設立申請をする予定です。提出書類に「設立当初の事業年度の収支予算書」がありますが、任意団体の会計をどのように引き継いだらよいのでしょうか？

任意団体の会計と、法人格として出発する時の会計は、まったく別ものと考えてください。それから法人認証後2週間以内に法務局に設立の登記をします。その際、法人認証時の財産の総額を記載し届け出ます。それが「財産目録」の「正味財産」です。

任意団体としてどのように会計を締めるかは、それぞれの団体の性格によって異なると思いますが、仮に50万の貯金があったので、登記時の「財産目録」に正味財産を50万と記載し、認証最長4ヶ月後、すぐに登記したとします。さて年度末の決算時、今度は「設立年度の財産目録」を認証窓口に提出しなくてはなりません。認証されるまでの4ヶ月の間に10万を使っていたので、認証日以降の財産は40万になっていました。登記された財産と、設立初年度に出発した財産額が、年度末決算で10万食い違っていることに気がきました。任意団体の会計をそのまま引き継ぐと、このようなことが起きがちです。「設立当初の決算書は、法人認証された日から出発する」がキーワードです。そこで一般的には、法人設立時は登記する正味財産を0として登記し、法人会計が出発する認証日以降に、前身の任意団体からの寄付金として、40万なりが入金され、その結果、設立初年度に財産ができたとして報告することが多いようです。



回答 NPO法人・i-ねっと
監修 税理士法人・中山会計

INFORMATION

県からのお知らせ

平成16年度 NPO派遣研修事業募集要項

- 1 事業の内容
この事業は、県内の市民活動団体、ボランティア団体又はNPO法人(以下「NPO」)の関係者が、国内で開催される全国的規模のNPO関係行事(以下「NPO関係行事」)に参加するために要する経費の一部を県が負担します。
- 2 対象者
県内に主たる事務所を有するNPOの会員(県内に在住する者に限る)であること。ただし、当該派遣研修事業の利用については、同一年度内において、1団体につき1名かつ1回限りとします。なお、募集人員は予算の範囲内とします。
- 3 対象事業
NPO関係行事で県が適当と認めたものとします。
- 4 県が負担する経費及び限度額
県が負担する経費は、次のとおりとします。
(1)交通費(県の旅費規程に基づき算出した金額)
(2)宿泊費については、1泊につき5,000円を限度とします。
(3)参加負担金(懇親会負担金除く)については、5,000円を限度とします。
- 5 申込方法
NPO関係行事に参加しようとする者は、当該行事開催の2週間前までにNPO派遣研修申込書(様式第1号)に必要事項を記入し、当該行事の概要・参加負担金等のわかる資料(写し可)を添付のうえ、石川県NPO活動支援センターに申し込むものとします。
- 6 結果報告
NPO関係行事に参加した者は、当該行事終了後速やかにNPO派遣研修結果報告書(様式第2号)に必要事項を記入し、当該行事において配布された資料(写し可)を添付のうえ、石川県NPO活動支援センターに提出す

お問い合わせ先
石川県NPO活動支援センター
〒920-0962 金沢市広坂2-1-1
石川県広坂庁舎 2号館 2階
TEL 076-223-9558 FAX 076-223-9559
URL <http://www.ishikawa-npo.jp>
E-mail npo@pref.ishikawa.jp
担当 / 岩城、河原

石川県協働推進人材養成講座

[第1部] 協働事例報告・研究会

県外で協働事業に取り組む行政職員を講師に迎え、皆さんの抱える問題とともに協働事業のあり方について考え、その推進に向けた課題を話し合います。

七尾会場
平成16年7月16日(金) 10:00~16:00
七尾サンライフプラザ 12会議室
(七尾市本府中町7番地)

講師 / 吉岡幸彦氏
姫路市別所地区整備課 街なみ環境整備事業担当

加賀会場
平成16年7月30日(金) 10:00~16:00
加賀市立図書館 視聴覚ホール
(加賀市大聖寺地方町1-10-4 石川県九谷美術館隣)

講師 / 吉岡幸彦氏
姫路市別所地区整備課 街なみ環境整備事業担当

金沢会場
平成16年8月6日(金) 10:00~16:00
石川県若者しごと情報館 学習室
(金沢市広坂2-1-1 石川県広坂庁舎 1号館)

講師 / 出丸朝代氏
三重県NPO室室長

第1部は行政職員対象講座となります。NPO県民の皆さまは、第2部の講演会にご参加ください。

[第2部] 講演会

これからの地方自治と市民の自立に向けての「新しい公共システム」について学びます。

平成16年8月20日(金) 13:00~16:00
石川県庁行政庁舎 第1102会議室
〒920-8580 金沢市鞍月1-1
「市民、NPO 行政、企業の協働の時代」

講師 / 世古一穂氏
特定非営利活動法人 NPO研修・情報センター
代表理事

第2部は行政職員のほか、NPO県民の皆さまも

お問い合わせ先
石川県NPO活動支援センター
〒926-0962 金沢市広坂2-1-1
石川県広坂庁舎 2号館 2階
TEL 076-223-9558 FAX 076-223-9559
E-mail npo@pref.ishikawa.jp
担当 / 河原

NPO・ボランティア情報

平成16年度 ボランティア講演会 「新しいライフスタイルを求めて」

目的・趣旨 /

いま、福祉をはじめ、医療、スポーツ、生活環境、青少年活動、まちづくり、災害支援などさまざまなボランティアが求められています。

勤労者が、仕事を離れてボランティア活動に参加することは、社会に貢献できる満足感を得られるほか、人と人とのネットワークの形成や、新たな自己発見の形成にもつながります。

そこで、ボランティア活動者の拡大を図ることを目的に、勤労者が実際に働きながらボランティア活動に参加している事例や、企業が技術を活かし地域貢献に関する事例を学ぶ講演会を開催します。

日時 / 平成16年8月5日(木) 13:30~16:00

会場 / 石川県福祉総合研修センター4階 第2研修室
(金沢市本多町3-2-15)

対象 / 勤労者一般

内容 / 働く方々のボランティア活動をとらした地域社会への参加をとりあげ、新しいライフスタイルについて考えます(事例発表および講演)。

その他・特記事項 / 参加費 無料

お問い合わせ先

社会福祉法人 石川県社会福祉協議会
ボランティアセンター
〒920-8557 金沢市本多町3丁目1番10号
TEL 076-234-1616 FAX 076-222-8900
E-mail vc-isk@w.shakyo.or.jp

いしかわ環境フェア2004 ボランティアスタッフ募集!

「いしかわ環境フェア2004」開催にあたり、下記の通りボランティアスタッフを募集しています。

「いしかわ環境フェア2004」での「ペットボトル飛行機づくり」の指導

実施期日 / 平成16年8月21日(土)・22日(日)

9:30~17:00

実施場所 / 石川県産業展示館2号館

上記指導のための「ペットボトル飛行機づくり」事前練習

実施期日 / 平成16年8月17日(火) 10:00~12:00

実施場所 / 県民エコステーション

お問い合わせ先

社団法人いしかわ環境パートナーシップ県民会議
〒920-0962 金沢市広坂2-1-1
石川県広坂庁舎2階 県民エコステーション内
TEL 076-232-3991 FAX 076-232-3992
E-mail info@eco-partner.net

2004いしかわミュージックアカデミー音楽ボランティア募集

目的 / 世界に通用する若手音楽家の育成と音楽文化の振興を目的とした「2004いしかわミュージックアカデミー」を開催するにあたり、下記のとおり音楽ボランティアを募集します。

実施期間 / 平成16年8月17日(火)~28日(土)

募集期間 / 平成16年7月中旬まで

実施場所 / 石川県立音楽堂、石川県青少年総合研修センター 他

対象 / クラシック音楽や音楽ボランティアに興味・関心のある高校生以上の方

内容 / 講師のアシスタントやコンサート、受講生発表会の運営のお手伝い

・定員なし(申込者全員に参加いただく予定)

・参加費なし

・参加者には、記念Tシャツとコンサートの招待券を差し上げます。

その他特記事項 /

・参加可能な日のみの参加可

・申込者を対象とした事前説明会を8月上旬に開催予定

お問い合わせ先

いしかわミュージックアカデミー実行委員会
〒920-8580 金沢市鞍月1-1
石川県文化振興課内
TEL 076-225-1372 FAX 076-225-1374
URL http://www.pref.ishikawa.jp/music/
ホームページに募集概要及び申込用紙を掲載

助成金ニュース

日本財団 福祉車両(車いす対応車)助成

対象団体 / 以下の1~6の活動の中で、送迎・移送サービス事業を行っているボランティア団体またはNPO法人

1.作業所の活動

2.障害者による自立生活センターの活動

3.在宅介護・家事援助(ホームヘルプ)活動

4.移動困難者の外出支援活動(移送サービス)

5.宅老所(民間デイサービス)の活動

6.その他この助成事業の主旨に沿うと判断される活動

対象車両 /

日本財団仕様福祉車両の中から1団体1車種を選択

助成金額 / 車両本体費用+リフト・スロープなどの特殊装置代(=基準価格)の90%(基準価格の10%と登録・納車・保険等の諸経費、オプション追加経費は自己負担)申請方法 / 所定の申請用紙に必要事項を記入の上、郵送または宅配便にてお送りください。

提出期限 / 平成16年7月31日(土) 当日消印有効

お問い合わせ先

日本財団福祉車両チーム
〒107-8404 東京都港区赤坂1-2-2
TEL 03-6229-5163(9:00~17:00土・日・祝祭日を除く)

みずほ福祉助成財団 社会福祉助成

助成対象 / 法人施設、団体、共同作業所又は研究グループとし、個人は除きます。

対象事業 / 心身障害(児)者、精神障害者に関する事業及び研究で先駆的・開拓の事業を優先します。

助成金総額 / 4,400万円

助成金額 /

事業助成 15万円~100万円以内

研究助成 200万円以内

申込書請求 /

当財団へハガキあるいはFAXで請求してください。

また、ホームページよりダウンロードできます。

申込書提出 / (財)みずほ福祉助成財団事務局へ直接送付してください。

提出期限 / 平成16年7月末日 当日消印有効

お問い合わせ先

(財)みずほ福祉助成財団事務局
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-5-4
TEL 03-3201-2442 FAX 03-5252-8660
URL http://homepage3.nifty.com/mizuho/fukushi/
E-mail BCL00683@nifty.com

イオン環境財団 2004年度助成先公募

助成対象 / 基本テーマ「自然の生態系を守るために」

・第14回助成先公募(総額 億円)

対象 / 開発途上国および日本国内での活動を対象とし、フィールドワークを伴う環境保全活動を行っている団体・個人

申請テーマ /

- A. 植樹・緑化・砂漠化防止
- B. 野生生物保護
- C. 自然環境の浄化
- D. その他自然の生態系を守る為の実践活動

・財団設立15周年記念特別助成(総額5千万円)

対象 / 日本国内の森林再生のための植林事業を中心に積極的に活動を行っている団体

申請テーマ /

- E. 日本国内の植樹・下草刈り・除伐・間伐等

助成金の使途 / 国内の環境保全等、上記助成対象に貢献する実践活動に使用するものとする。(親睦会・慰労会等の費用は除く)

申込書提出 / 所定用紙に必要事項を記入の上、下記まで郵送・宅急便にてご送付ください。

提出期限 / 平成16年8月20日(金)

お問い合わせ先

(財)イオン環境財団
〒261-8515 千葉県千葉市美浜区中瀬1-5-1
TEL 043-212-6022 FAX 043-212-6815
URL http://www.aeon.info/ef
E-mail ef@aeon.info

住宅関連環境行動助成事業

助成対象 / 団体・法人が行う、住宅に関連する環境対策の推進に資する次の4項目の活動。

普及・啓発の活動 調査・研究の活動

ハード・ソフトの技術開発活動 緑化・美化活動

助成金額 / 件当たり原則50万円

応募方法 / 所定の助成申請書に必要事項を記入のうえ、書留にて郵送して下さい。

所定の申請用紙と助成金使用基準は、ホームページよりダウンロードできます。

募集期限 / 平成16年7月31日 当日消印有効

お問い合わせ先

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-6-6 晩翠軒ビル4階
(社)住宅生産団体連合会助成事業事務局
TEL 03-3592-6441 FAX 03-3592-6464
URL http://www.judanren.or.jp/

「あいむ」からのお知らせ

本誌の企画を行う「NPOユース企画会議」の今年度の企画委員は、次の皆さんにお引き受けいただきました。新メンバーも入り、企画も新たなものを出していただきたいと期待しています。

青海康男 いしかわ市民活動ネットワークセンター

西澤寿裕 ボランティアグループ「窓」

福多唯 自分をみつめるママの会 snigel m.

森山奈美 川への祈り実行委員会

吉田栄治 非営利活動市民団体 はづちを

岩城純二 石川県NPO活動支援センター

本誌に関するご意見、ご要望をお寄せください。お寄せいただいたご意見等は、制作に生かすほか、本誌に掲載してまいりたいと考えています。

INFORMATION利用案内

本誌は6月、9月、12月、3月の年4回発行する予定です。情報掲載希望の方は、おのおの前月の1日までに、事業の概要(企画書、チラシ等)を郵送、ファクシミリ等でお送りください。(その際には、「いしかわNPOユース」掲載希望とお書き添えください。)

ファクシミリの場合は、送信後から着信の確認をしてください。

政治、宗教、営利を目的とする活動は掲載できません。

誌面の都合により、お寄せいただいた情報を掲載できない場合があります。また、事前に掲載の可否の連絡はいたしませんので、石川県NPO活動支援センター「あいむ」

〒920-0962 金沢市広坂2-1-1

石川県広坂庁舎2号館2階

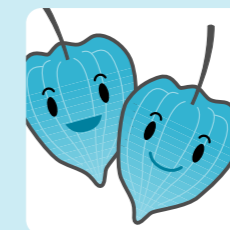
TEL 076-223-9558 FAX 076-223-9559

担当 / 岩城、河原

編集後記

今年度より「いしかわのNPO」という県内のNPO活動紹介ページを新設しました。ボランティア団体、NPOの皆さんの情報発信の場としてご利用いただければと思っています。

NPO関係者をはじめ、県民の皆さまにとって意味のある、読みやすい機関誌を目指していきたいと思っています。誌面に関するきんのないご意見をお待ちしています。



石川県NPO活動支援センター「あいむ」

〒920-0962 金沢市広坂2-1-1

石川県広坂庁舎2号館2階

TEL 076-223-9558 FAX 076-223-9559

URL http://www.ishikawa-npo.jp

E-mail npo@pref.ishikawa.jp